

1 単元について

【考え・基礎知識】

・「和」と「洋」の対比構造に気づき、それぞれの良さを読み取る。

【つながり】

・調べたことを目的に応じて要約・引用して新聞を作る。

【応用・ひろがり】

・他教科や総合的な学習の時間などにおいて、興味・関心を持ったことを本や資料などで調べ、目的や課題に応じて情報を活用し、発信する。

【単元観】

本単元は、小学校学習指導要領国語のC読むこと(第3学年及び第4学年)(1)イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むことができること。」及びエ「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」を受けて設定したものである。言語活動は、(2)イ「記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。」に対応する。

本単元では、生活の中の「和」と「洋」のものの中から、比べるものと比べる観点を決め、図鑑や事典を読み、必要に応じて文章を引用したり要約したりすることを通して、「くらしの中の和と洋なるほど新聞」を作るという言語活動を位置付ける。

教材文は、生活の中の住の「和」と「洋」の違いやそれぞれのよさを対比し、わかりやすく説明したものである。文章の大まかな構成をつかんだ上で、対比構造に着目しながら段落相互の関係をとらえ、中心となる語や文をもとに目的に応じた引用や要約ができるようになることをねらいとしている。

【児童観】

児童は説明的文章では、一学期に「ヤドカリとイソギンチャク」において、まとまりごとに構成をとらえる学習を行ってきた。順序を表す言葉や話題を変える言葉を手がかりに文章のまとまりをとらえ、「問い」と「答え」の関係については理解できるが、そこから意味段落ごとに見出しを付けることを苦手とする児童が多かった。単元末テストの平均点は、94.5点であり、段落と段落の結びつきを考えながら文章の構成をとらえることについては概ね定着できていると言える。

本単元に関わる児童アンケートでは、74%の児童が説明的文章を読む学習が好きと答えており、その理由として「始め」、「中」、「終わり」という文章の構成をとらえ、段落相互の関係を大まかにつかむことができるようになったことを挙げている。今年度から全校で朝学習の時間に取り組んでいる要約・読み取りスキル問題集での練習が結果につながっているととらえている。

7月と10月に行った資質・能力に関わるアンケート結果を比較すると、主体性が85%から92%と肯定的評価の向上が見られる。国語科や総合的な学習の時間で収集した情報をわかりやすく整理し、まとめたことをもとに話し合う活動を積極的に取り入れた結果だととらえている。

【指導観】

本単元では、四季っ子応援団の方々に和と洋それぞれの良さを新聞で伝えるという言語活動を設定した。教材文では「くらしの中の和と洋ブック」が例示されているが、国語科・総合的な学習の時間の学びをつなぎ、新聞を取り上げた。その理由は、児童の実態として新聞作りが大好きであることと、新聞の特性を生かすことで「思考力・判断力・表現力」の育成につながりたいと考えたからである。

第一次の「課題の設定」の場面では、身近な生活から食に関する和と洋を取り上げ、どちらが好きかという視点で話し合い活動を行う。和食と洋食を好む対象を明確にすることで、どちらにも良さがあることに気付かせ、それを分かりやすく伝えるために、本単元を学習するという学びの必然性を持たせる。

第二次の学習では、調べたことや自分の考えを効果的に表現するために教材文をもとに既習事項である要約と関連付けながら引用の仕方を習得する。引用する部分は、かぎ(「」)をつけ、もとの文章のまま書き抜くことや書かれたページ等の条件を満たして書くことを指導する。まとめ方については、言語活動として位置づけた新聞の形式で行い、後の学習につないでいけるようにする。

第三次の学習では、第一次の導入とつなげ、くらしの中の和と洋から調べたいものを決め、これまでの学習を活用・発揮しながら新聞を作る。

「課題の設定」の場面では、和と洋探しや比べる観点見付けを付箋や表を使って思考を可視化しながら行う。

「情報の収集」・「整理・分析」の場面では、図鑑・事典等から必要な情報を見付け、引用お助けカードを活用して必要な情報をメモできるようにしたり、引用・要約したい部分に付箋をつけたりすることを通して情報を収集し、比べる観点と伝えたい事柄の目的に合った内容であるかを比較しながら整理することができるようにする。

「まとめ・創造・表現」の場面では、第二次の学習と同様の新聞の枠を使って収集した情報をまとめ、完成させていく。出来上がった新聞は、四季っ子応援団ルームや外国語ルームに掲示し、応援団の方々やALTに調べたことを伝え、感想をいただくことで、児童に達成感を味わわせ、資質・能力の向上につなげたい。

2 単元の目標

- 暮らしの中の「和」と「洋」の違いに関心を持ち、「暮らしの中の和と洋なるほど新聞」を作るために、目的に応じて引用したり要約したりしようとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むことができる。 【読むこと イ】
- 自分の考えを述べたり調べたことを紹介したりするために、文章の必要な部分を引用したり要約したりすることができる。 【読むこと エ】
- 段落相互の関係に注意しながら、指示語や接続語の役割を理解し、自分で文章を書く際に用いることができる。 【伝国 イ(ク)】

3 単元の評価規準

資質・能力 思考力・判断力・表現力	・「和」と「洋」の違いや良さを伝えるために収集した情報を目的に応じて取捨選択しながら引用したり要約したりしている。	
国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
イ「記録や報告の文章，図鑑や事典などを読んで利用する言語活動」を通じた指導		
・暮らしの中の「和」と「洋」の違いに関心を持ち、「暮らしの中の和と洋なるほど新聞」を作るために、目的に応じて引用したり要約したりしようとしている。	・「和」と「洋」のよさや違いをどのように比べているかを読み取るために、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読もうとしている(イ) ・「和」と「洋」のよさやそれについての自分の考えを述べたり調べたことを紹介したりするために、文章の必要な部分を引用したり要約したりしている。(エ)	・指示語や接続後が段落相互の関係を示す手がかりになることを知り、その役割を理解し、使っている。 イ(ク)

4 指導と評価の計画(国語 全12時間)

次	時	学 習 活 動	評 価	
			教科の評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
単元前		課題の設定(道徳)「日本はどんな国？」 ※日本の良さを自分たちがあまり理解していないことに気づき、良さを再確認して、しっかり調べて紹介したいという思いをもつ。		
第一次	1	課題の設定(国語科) ・クイズを通して、道徳の内容を思い出し、暮らしの中の「和」と「洋」に関心をもつとともに、紹介するために新聞を作成するという課題とゴールを明確にし、その解決に向けて毎時間の学習課題の見通しをもつ。	【関】和食と洋食に着目し、「和」と「洋」の違いを考えることを通して、それぞれのよさやちがいについて調べたことを引用を使って新聞をつくる学習への見通しをもとうとしている。 (発言・ノート)	
	2	情報の収集 ・新聞の内容、構成の参考にするという目的意識をもって全文を読み、書かれていることの大まかな内容と段落構成をとらえる。	【読】暮らしの中の「和」と「洋」の違いやよさについて、手がかりになる言葉に着目し、大まかな内容と構成をとらえている。 (発言・ノート)	
	3	情報の収集、整理・分析 ・新聞のリード文の参考にするために、形式段落③を要約する。	【読】暮らしの中の「和」と「洋」の違いやよさについてまとめるために中心となる言葉や文に着目し、要約している。 (発言・ノート)	
	4	情報の収集 ・新聞の記事にするために、「中」の前半部分から部屋での過ごし方を比較し、よさや違いについて引用・要約する方法を知る。	【読】暮らしの中の「和」と「洋」の違いやよさについてまとめるために引用の仕方を理解している。 (発言・ノート)	

図書・事典の並行読書

	5	整理・分析, まとめ・創造・表現 ・新聞の記事のために、「中」の後半部分から部屋の使い方を比較し、よさや違いについて引用・要約する。	【読】 教材文を引用したり、要約したりしながら、暮らしの中の「和」と「洋」の違いやよさについて自分の考えをまとめている。 (発言・ノート)	・「和」と「洋」の違いや良さを伝えるために収集した情報を目的に応じて取捨選択しながら引用したり要約したりしている。 【思考力・判断力・表現力】
	6	まとめ・創造・表現, 振り返り ・和室と洋室のよさや違いについてまとめたことを新聞に表し、これまでの学びを振り返る。	【言】 指示語や接続後が段落相互の関係を示す手がかりになることを知り、その役割を理解し、使っている。 (発言・新聞・ノート)	
第三次	7	課題の設定, 情報の収集 ・生活の中にある「和」と「洋」を探し、調べたいものを決め、比べる観点を話し合う。	【関】 自分の課題を解決するために暮らしの中の「和」と「洋」を探し、比べる視点を見付けている。 (発言・ノート)	
	8	情報の収集, 整理・分析 ・選んだ「和」と「洋」について比べる視点をもとに必要な情報を収集する。	【読】 何をどのように比べるかを明確にし、複数の本や資料から必要な情報を選んで読んでいる。 (発言・ノート)	
	9	整理・分析 ・「和」と「洋」について調べたことを視点をもとに対比しながら整理する。	【読】 思考ツールを使って、「和」「洋」それぞれのよさやちがいを対比しながら整理している。 (発言・ノート)	
	10	整理・分析, まとめ・創造・表現 ・整理した情報を引用や要約を使ってまとめる。	【読】 収集した情報を比べる観点をもとに整理し、資料を引用したり要約したりして自分の考えをまとめている。 (発言・ノート)	・「和」と「洋」の違いや良さを伝えるために収集した情報を目的に応じて取捨選択しながら引用したり要約したりしている。 【思考力・判断力・表現力】
	11	まとめ・創造・表現 ・引用・要約文を読み直し、よりよい表現に書き直し、「暮らしの中の『和』と『洋』新聞」を仕上げる。	【言】 指示語や接続後が段落相互の関係を示す手がかりになることを知り、その役割を理解し、使っている。 (発言・ノート)	
	12	実行, 振り返り ・「暮らしの中の『和』と『洋』」を紹介し、単元全体における自己の学びを振り返る。	【関】 自分のものの見方や考え方の変容、学び方を振り返っている。 (発言・ノート)	
単元後	まとめ・創造・表現（総合的な学習の時間） ・総合的な学習の時間「Let's トライ 防災」			

図書・事典の並行読書

5 本時の目標

和食と洋食に着目し、「和」と「洋」の違いを考えることを通して、それぞれのよさやちがいについて調べたことを引用を使って新聞をつくる学習への見通しをもつことができる。
【関心・意欲・態度】

6 本時の展開

	学習活動（時間）	◇指導上の留意点 ・予想される児童の反応 ◆主体的な学びを促す教師の手立て	評価規準（評価方法）
課題の設定	1 身近な生活とつなげ、学習課題をつかむ。（8分）	◇先週の道徳の時間で日本のよさを伝えたいという意見があったことを想起させる。 ◆今日食べてきた朝ごはんについて交流する。和食と洋食のメニューを電子黒板で提示しながら、クイズ感覚で仲間分けし、楽しみながら本単元の学びに向かう意欲を高める。 ◇和食と洋食、どちらが好きか話し合わせる。 ・私は洋食の方が好きです。魚より肉の方がおいしいです。 ・洋食は子どもに人気だけど、和食がなかったら、おじいちゃんやおばあちゃんが困ると思います。 ◇和食と洋食、どっちもいいところがあることに気付かせ、両方の良さを一緒に分かりやすく紹介するという本単元の言語活動に必然性をもたせる。	【関心・意欲・態度】 ・和食と洋食に着目し、「和」と「洋」の違いを考えることを通して、それぞれのよさやちがいについて調べたことを引用を使って新聞をつくる学習への見通しをもとうとしている。（発言）
	㊟ 「和」と「洋」それぞれの良さを伝えるための学習計画を立てることができる。		
情報の収集	2 本単元の言語活動について話し合う。（7分）	◇だれに、どんな方法でそれぞれの良さを伝えたいか話し合わせる。 ・他学年に伝えたいです。 ・地域の方へ学習発表会のお知らせをポスターで伝える学習をしたけど、よさを伝えるにはどんな方法がいいかなあ。 ・1学期の国語の学習をいかして新聞で伝えたいです。 ・お世話になっている四季っ子応援団の方に伝えるのもいいね。応援団の方はおじいちゃんやおばあちゃんだから、「和」がいいと思っているかもしれないけど、「洋」もいって思えたらいいね。	
整理・分析	3 書く内容について話し合う。（12分）	◆2つの事柄のそれぞれの良さをまとめた例として新聞のモデル（夏と冬の楽しみ方新聞）を提示し、書く内容を視覚的にとらえやすくする。 ・見出し ・リード文 ・記事 ・編集後記（記者からの一言） ◆提示した新聞と同じ内容のプリントを配付し、個々で読む時間を設定する。	
まとめ	4 学習計画について話し合い、教材文と出合う。（13分）	◇新聞の枠を使って、書く事柄を整理する。リード文や記事は、既習事項である要約と本単元で習得をめざす引用をもとにまとめていくことをとらえさせる。 ◆ゴールイメージを明確にしながら、新聞の枠をもとに学習計画を立てていく。 ◇文章のまとまりを考えながら教材文を読む。	
振り返り	5 本時の学習における、自己の学びを振り返る。（5分）	◆自己の学びを振り返り、課題解決への期待と意欲を高める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">㊟ 今日から新しい学習に入りました。くらしの中の「和」と「洋」について調べたことを新聞にします。記事の文章を書くのに、引用という方法を使うことがわかりました。むずかしそうだけど、まず教科書で練習して、新聞づくりにいかしていきたいです。次からの学習が楽しみです。</div> ◇振り返りを交流し、本時の学びを資質・能力の視点で価値付け、次時につなげる。	【関心・意欲・態度】 ・和食と洋食に着目し、「和」と「洋」の違いを考えることを通して、それぞれのよさやちがいについて調べたことを引用を使って新聞をつくる学習への見通しをもとうとしている。（発言・ノート）

7 板書計画

